

恩師の  
思い出

## 「アナグマ」こと、 矢島勝先生の叱咤激励



佐々木康夫 (高15回)

●ささき・やすお

飯田市出身、早稲田大学第一法学部卒業。昭和電工勤務を経て、現・ケミカルフォース会長。趣味は陶芸、写真。東京都江戸川区在住。在京飯田高校同窓会第12代会長。

故・矢島勝先生は、ずんぐりした身体でのそのそ歩く、おらかな先生でした。東京大学在学中、ラグビーで首を痛めたとかで、首を傾けて歩く姿は愛嬌がありました。それは穴から出て餌を探すアナグマのようで、そんな姿で付いたあだ名でしょうか。

アナグマの趣味はカメラを担ぎ写真を撮って歩くことでした。私が高校2年の

三六災害時、親戚の家の1階が土砂で埋まってしまいました。親戚の者達が朝から必死に土砂を掘ったのですが、さすがに疲れ、道端で休んでいた時、アナグマがカメラ片手に現れました。その時、何を言ったか覚えていませんが、皆に声を掛けてくれ、皆、その言葉で大いに笑い、疲れが和らいだものでした。写真は、古く不鮮明ですが、その時アナグマが撮ってくれたものです。アナグマの愛嬌ある言葉は、常に人を勇気付け、和ませてくれました。

そのアナグマが、日本史の授業時、突然言い出しました。「教室にこの学校で勉強しない3人の内の1人がいる。それは柔道班の佐々木だ」と。それを



矢島先生が撮ってくれた写真(右下枠内は矢島勝先生)

聞き、私は頭にきて、机を持ち上げ、後ろの壁際に行き、後向きに座ってしまいました。確かに勉強しない私でしたが、アナグマへの反発のつもりでした。それが、壁を見詰めて授業をじっと聞いていると、歴史が面白いと気付いたのです。結果、歴史に興味を持ち、他の勉強はそっちのけで、歴史の勉強をするようになりました。大学入学時、担任教授の個人面談の際、教授が持参した私の入学試験の答案を覗き見たら、日本史は百点でした。思わずアナグマの顔が浮かんだものです。アナグマのあの時の悪口は叱咤激励だったのですね。

アナグマは、先生・生徒の間でも対等に接してくれ、愛嬌あるあだ名ばかりでなく、とても親しまれる先生でした。今でも懐かしく思い出される。アナグマ先生です。

### 矢島勝先生経歴

諏訪中学(現・諏訪清陵高校)、第一高等学校、東京帝国大学(現・東京大学)文学部を卒業。ポール・ヴァレリー、レオナルド・ダ・ヴィンチに傾倒。終戦後、高校の教員となり、飯田高校に1952年(昭27年)〜1978年(昭53年)3月まで在職。